

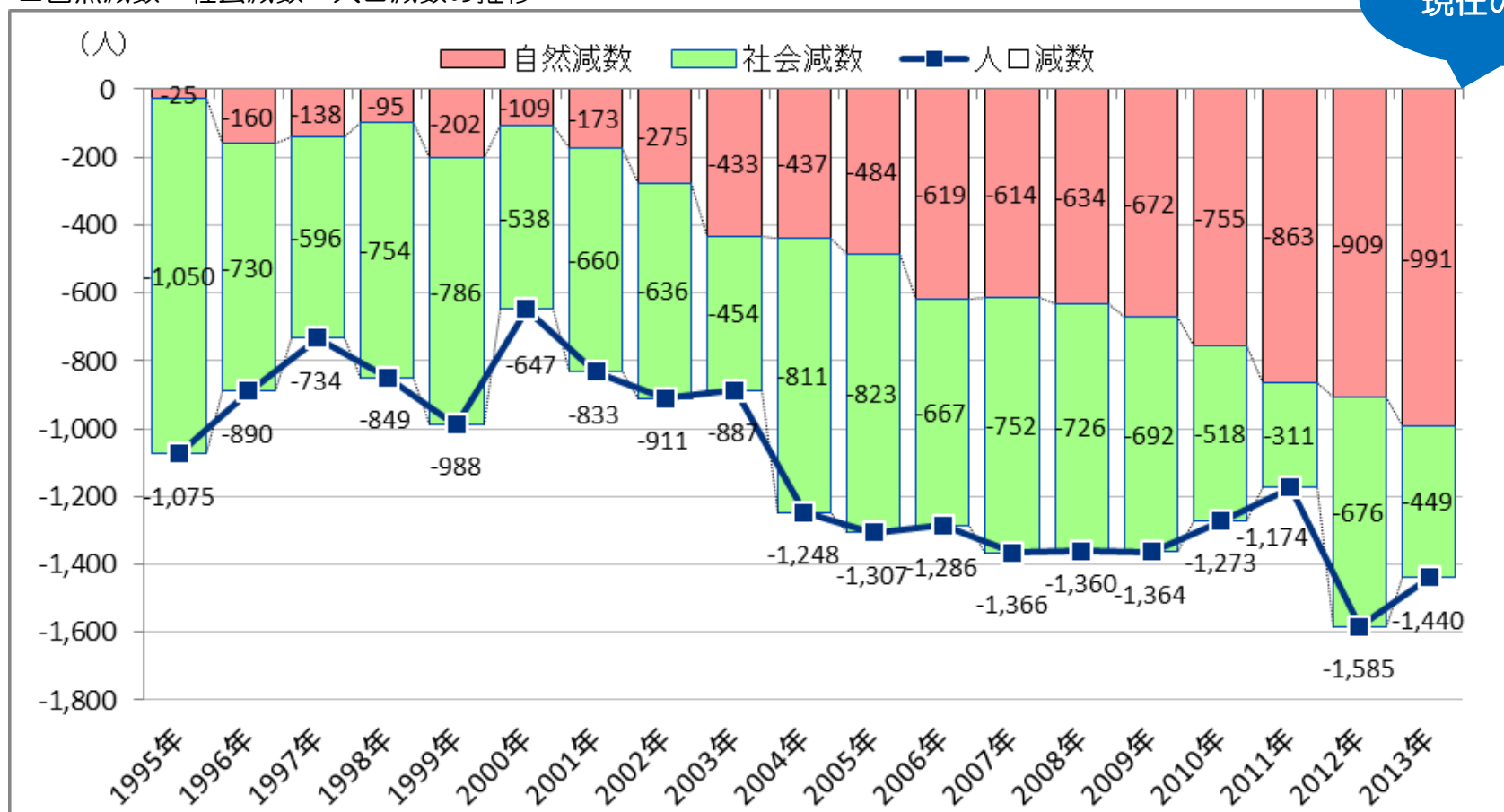
5：目指すべき将来の方向について

◆人口減少対策について

本市の人口減少は以下のグラフで示すとおり、自然減（出生数より死亡数が多い）、社会減（転入数より転出数が多い）が同時進行しており、今後人口減少は加速化することが推計されている。

ここでは、これまで示してきた客観的なデータに加え、子育て世代（20～49歳）・転入者・転出者・学生（高校生・大学生）に実施したアンケート等から、人口減少対策に向け、本市が今後取り組むべき方向性を提示する。

■自然減数・社会減数・人口減数の推移



【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査

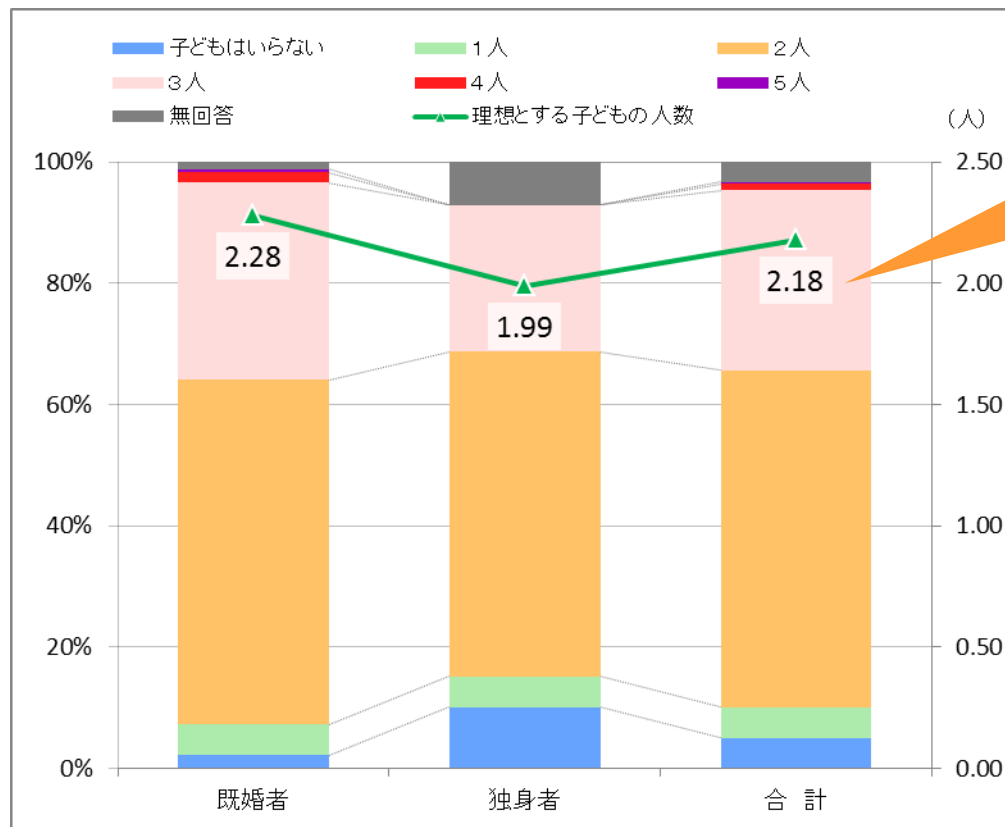
5：目指すべき将来の方向

(1) 自然増に向けた対策

①出生数、合計特殊出生率の向上のための取組

本市では、出生数が減少し、死亡数が増加していることから、年間約1,000人の自然減がある。このため、出生数を改善するための取組が必要である。以下の図表は子育て世代（20～49歳）を対象に実施したアンケートの結果である。

■設問：理想とする子どもの人数について



市民の理想とする
子どもの人数は2.18人

※2013年の合計特殊出生率
：1.27

■理想とする子どもの人数

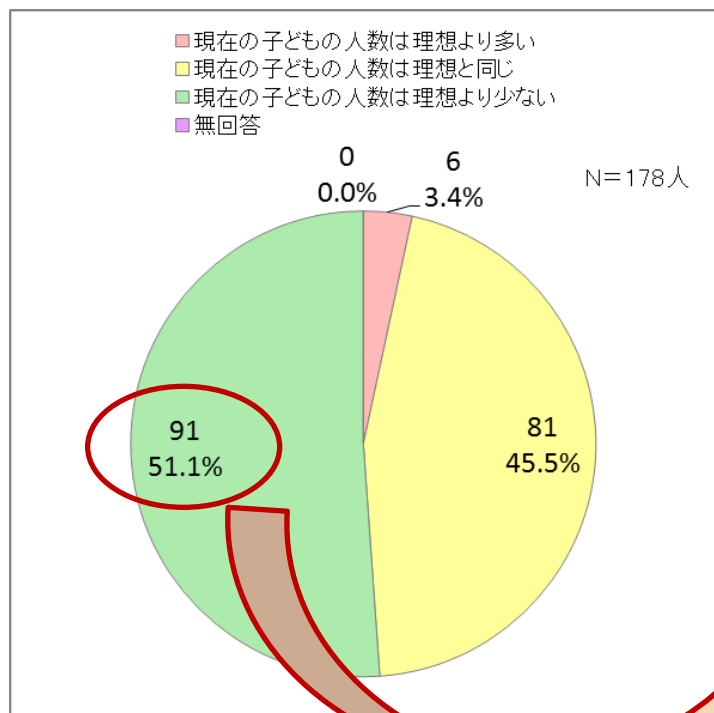
項 目	既婚者		独身者		合 計	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
子どもはいらない	4	2.2%	10	10.1%	14	5.1%
1人	9	5.1%	5	5.1%	14	5.1%
2人	101	56.7%	53	53.5%	154	55.6%
3人	58	32.6%	24	24.2%	82	29.6%
4人	3	1.7%	0	0.0%	3	1.1%
5人	1	0.6%	0	0.0%	1	0.4%
無回答	2	1.1%	7	7.1%	9	3.2%
合 計	178	100.0%	99	100.0%	277	100.0%
理想とする子どもの人数	2.28		1.99		2.18	

※理想とする子どもの人数の算出に無回答は除く

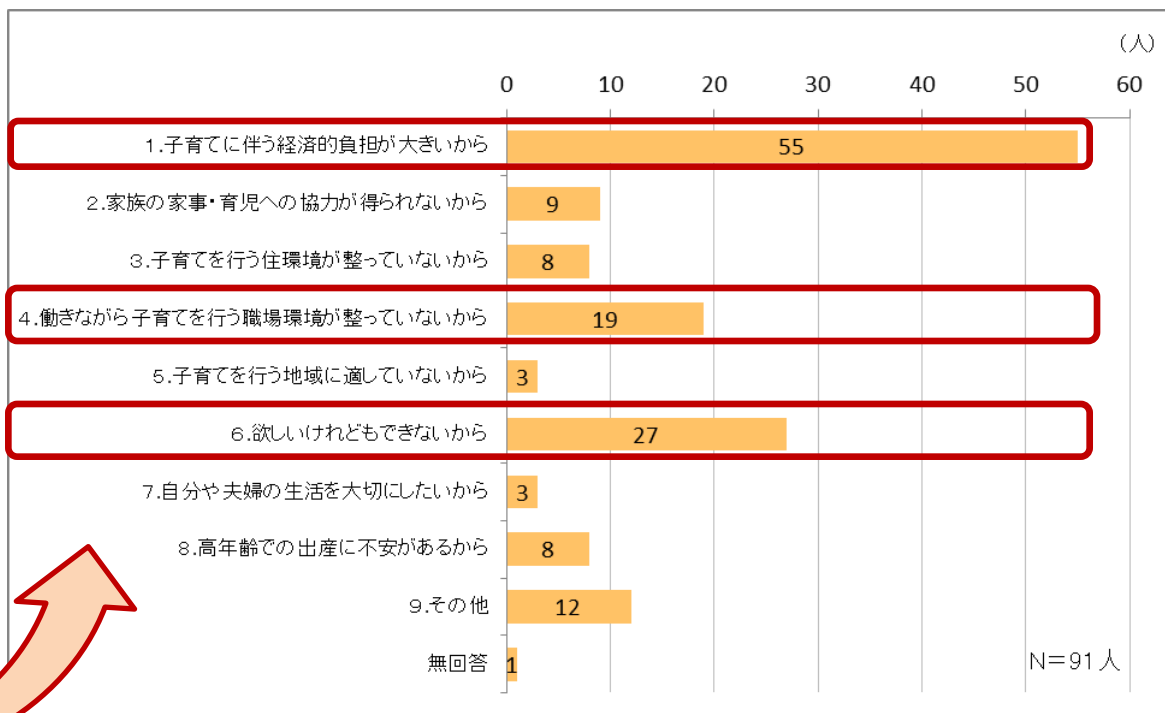
5：目指すべき将来の方向

以下のグラフは子育て世代（20～49歳）の既婚者に対し、現在の子どもの人数と理想とする子どもの人数に関して聞いた結果である。回答結果をみると、約半数が理想とする子どもの人数よりも少ないと回答しており、その理由として、経済的負担や子育て環境に関する回答が多かった。

■設問：現在の子どもの人数と理想とする子どもの人数との比較



■設問：現在の子どもの人数が理想とする子どもの人数より少ない理由（複数回答可）



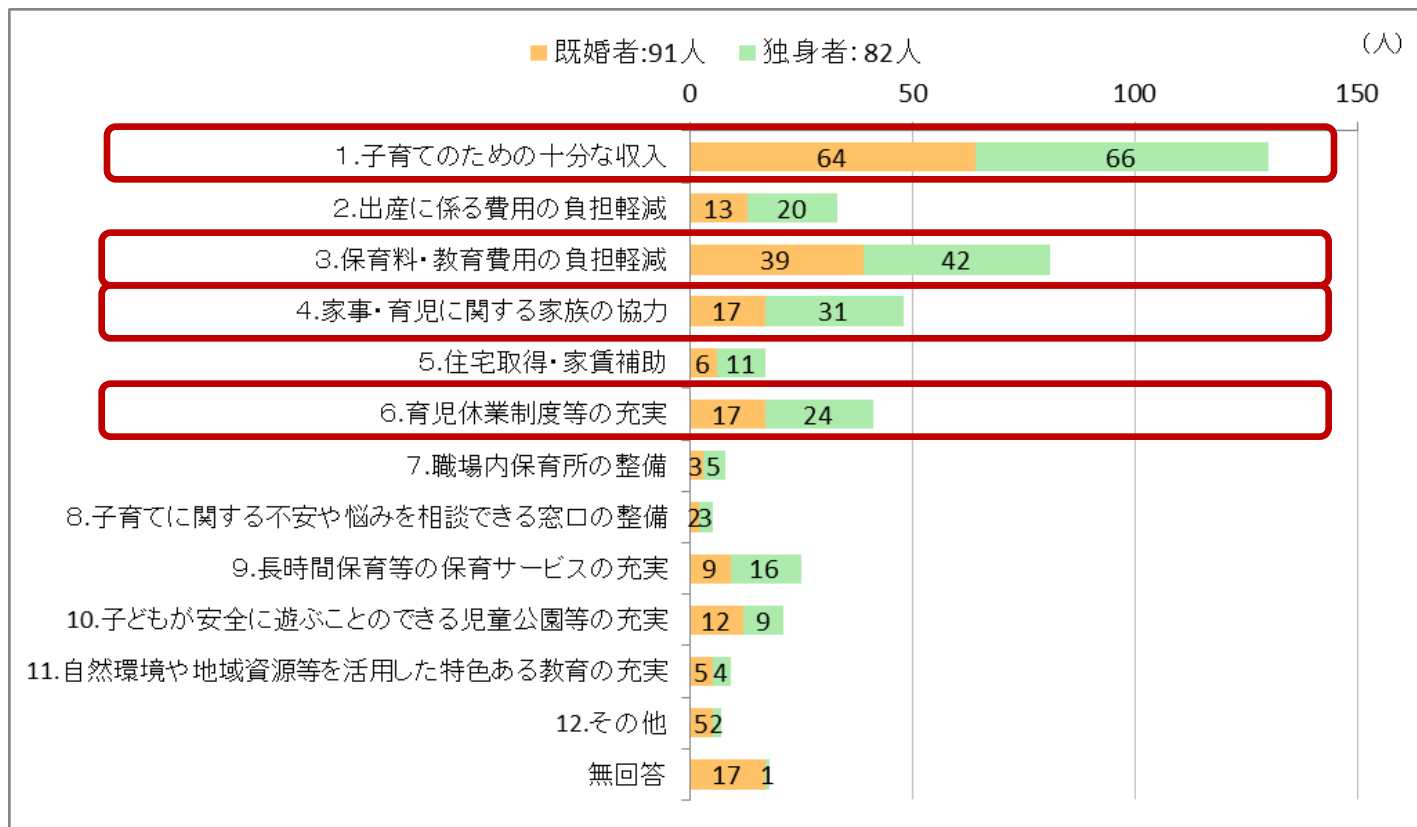
◆施策の検討に当たっての方向性

子育てに伴う経済的負担の軽減、職場環境の改善のほか、不妊治療の助成の拡充策などが必要であると考えられる。

5：目指すべき将来の方向

以下のグラフは子育て世代（20～49歳）に対し、理想とする子どもの人数とするためには、どのような施策が必要であるかについて、聞いた結果である。前頁の結果と同様に、子育てに伴う経済的負担の軽減を求めるもの、家族の協力や職場環境等の改善を求めるものが続いている。

■設問：理想とする子どもの人数とするために、必要だと考えること（複数回答可）



◆施策の検討に当たっての方向性

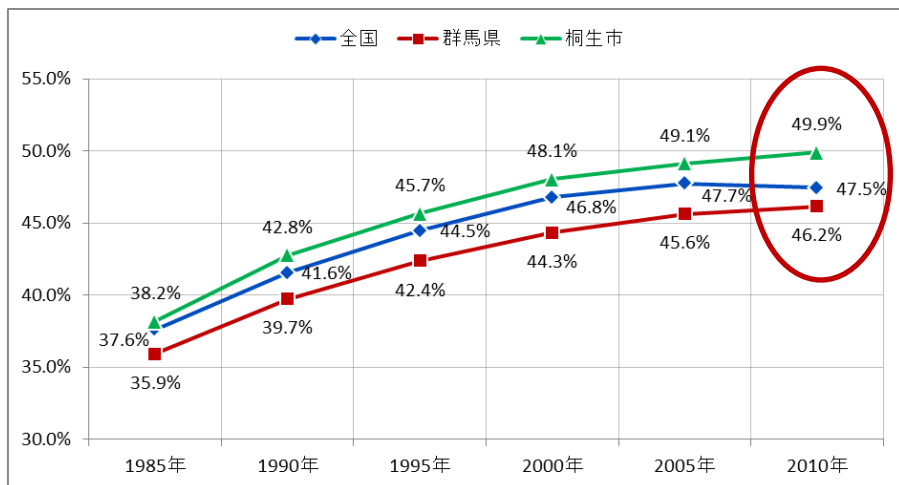
- ・ 子育てに伴う経済的負担の軽減（保育料・教育費用等）等の施策
 - ・ 家族の協力を促すための施策
 - ・ 職場環境の改善を促すための施策
- などが必要であると考えられる。

5：目指すべき将来の方向

②独身者への結婚支援のための取組

本市の未婚率は全国及び群馬県よりも高い状況となっており、近年、全国的に進む未婚率の上昇や晩婚化、晩産化により、出生数の減少が続いている。

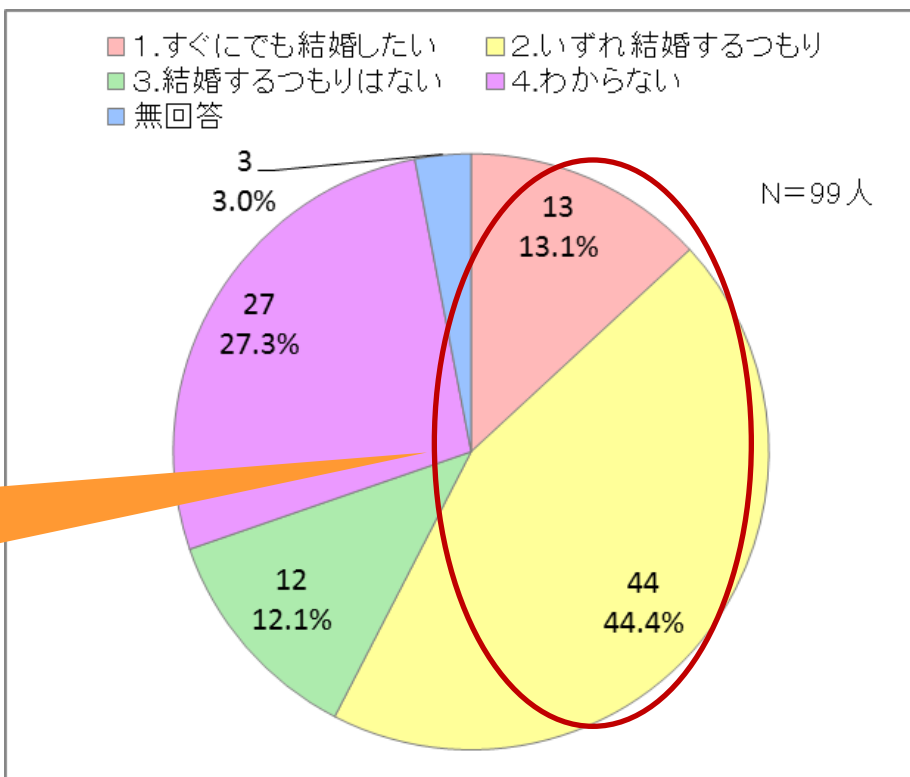
■未婚率の推移



【出典】総務省：国勢調査

以下のグラフは、子育て世代（20～49歳）の独身者に対し、結婚への意欲を聞いた結果である。「すぐにでも結婚したい」、「いずれ結婚するつもり」を合計すると約57%であり、結婚への意欲は高いことが窺える。

■結婚への意欲について

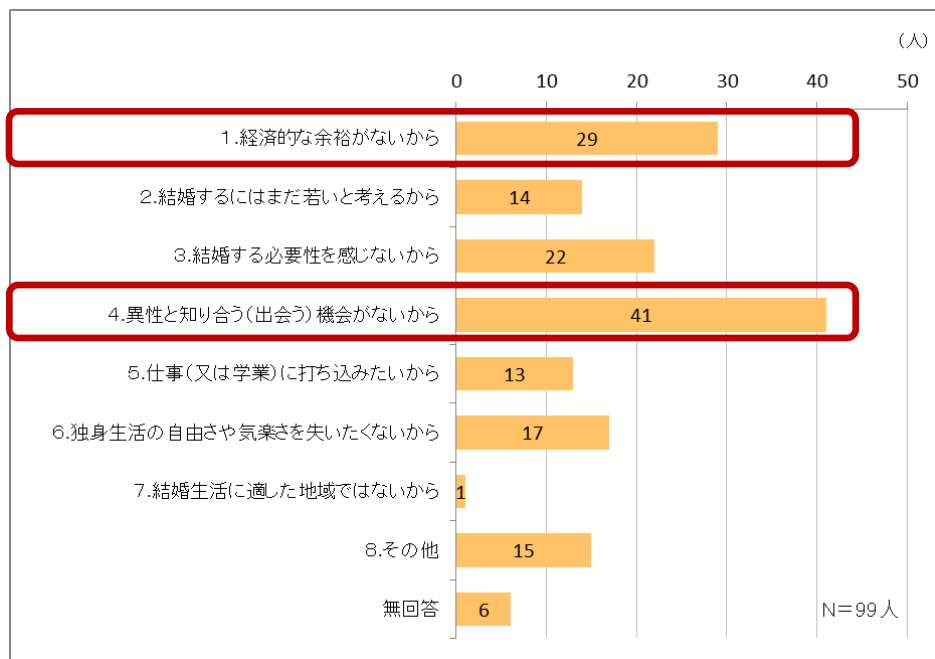


独身者の約58%は
結婚願望がある。
※結婚するつもりはないと
答えた人は約12%である。

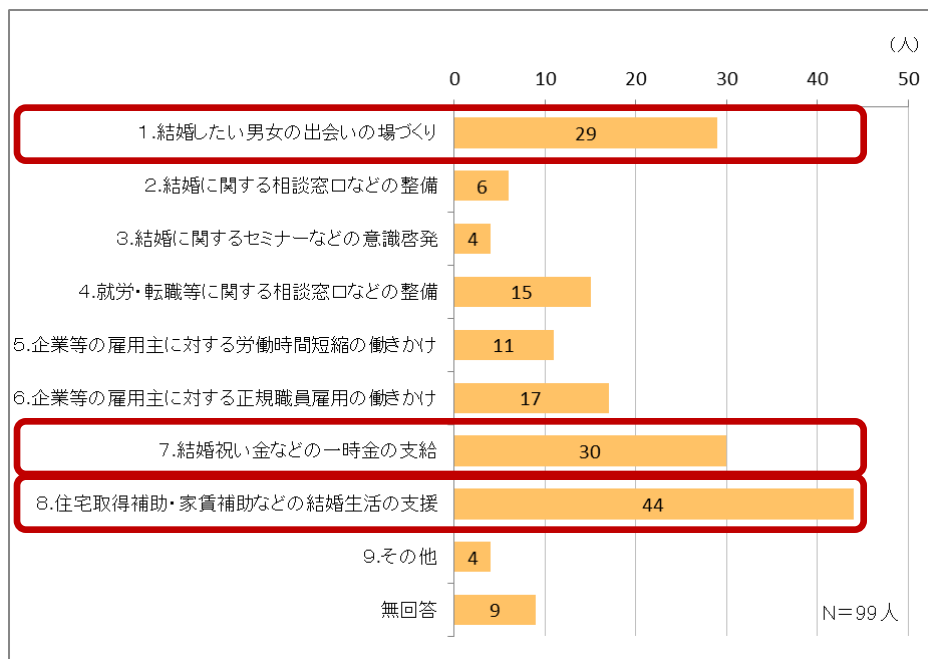
5：目指すべき将来の方向

以下のグラフは子育て世代（20～49歳）の独身者に対し、独身でいる理由と有効と思われる結婚支援策を聞いた結果である。それぞれの回答から、結婚生活に対する経済的な不安が窺えるほか、異性との出会いの場を求める意見が多いことがわかる。

■独身でいる理由について（複数回答可）



■有効と思われる結婚支援策について（複数回答可）



◆施策の検討に当たっての方向性

- ・若者の雇用形態等（非正規雇用）の改善策
- ・独身者への情報提供や出会いの場の提供
- ・結婚祝い金などの一時金、住宅取得補助・家賃補助等に関する施策 などが必要であると考えられる。

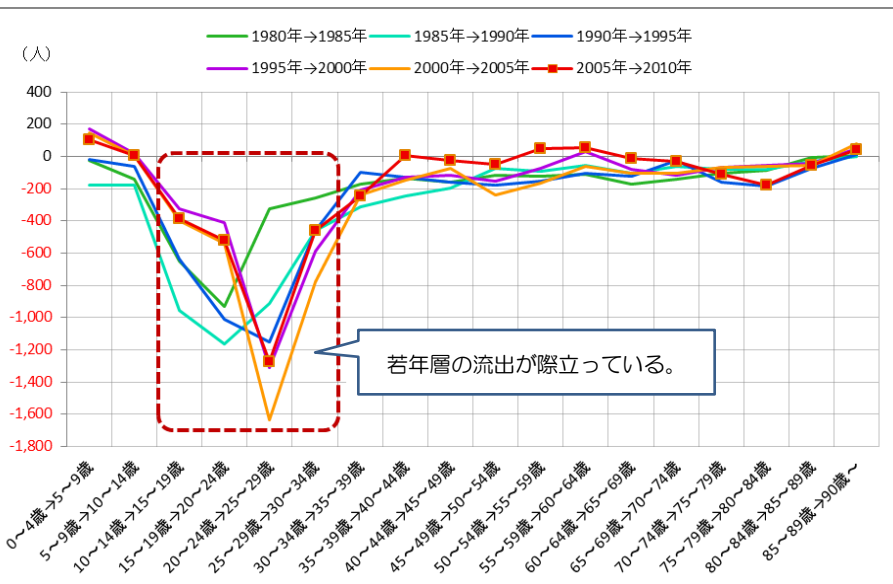
5：目指すべき将来の方向

(2) 社会増に向けた対策

①若年層の市外流出に歯止めをかける・転入促進のための取組

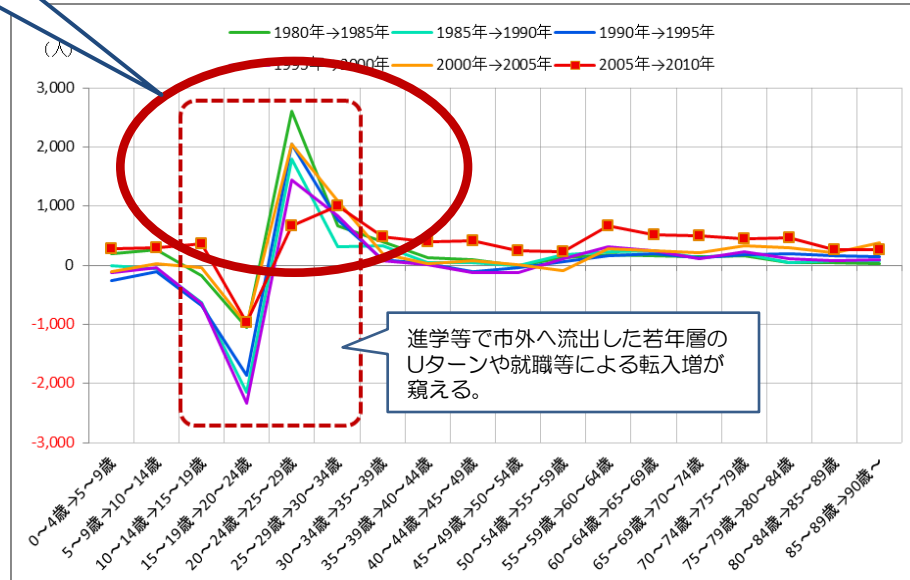
本市の社会減の特徴は以下のグラフに示すとおり、若年層の流出が際立っていることにある。このことの改善に向けた取組みが必要であると考えられる。

■ 桐生市の年齢階級別純移動数の時系列分析



本市にはこの特徴が見られない。

■ 参考：高崎市の年齢階級別純移動数の時系列分析



◆ 施策の検討に当たっての方向性

- ・ 進学等で市外へ転出した若者をUターンさせるための施策
- ・ 若者の転入を促すための施策 などが必要であると考えられる。

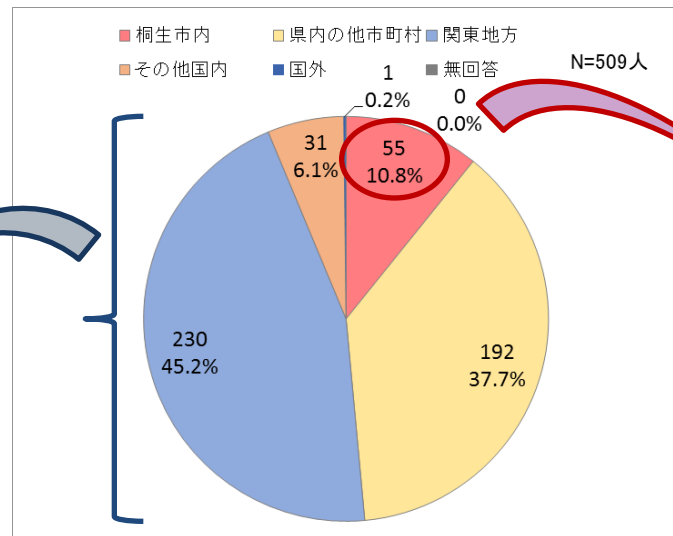
5：目指すべき将来の方向

②学生の市内定住等に向けた取組

以下のグラフは学生（高校生・大学生）に対し、進学先の意向を聞いた結果であり、桐生市内と回答した学生は約11パーセント、桐生市外と回答した学生は合計すると約89パーセントであった。

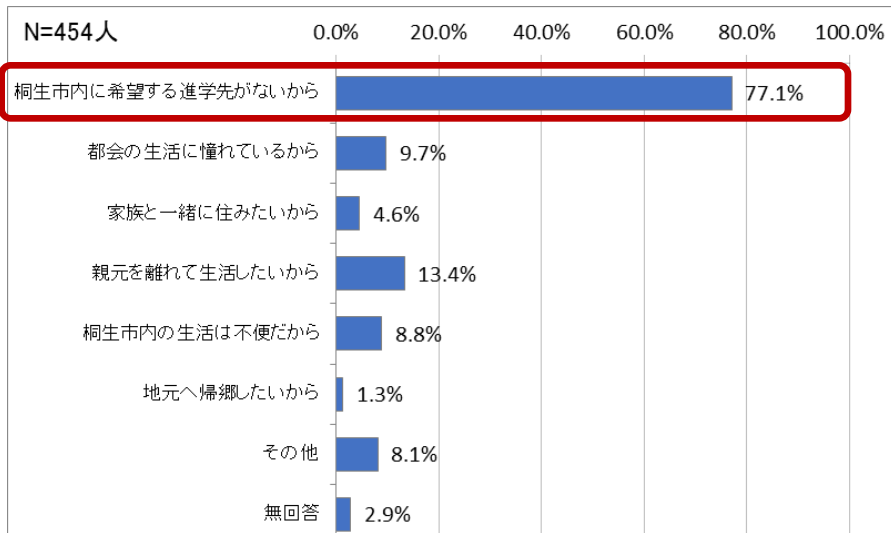
市外と回答した人の合計

桐生市外と回答した454人の回答では、桐生市内に希望する進学先がないことを理由とする回答が約77パーセントであった。

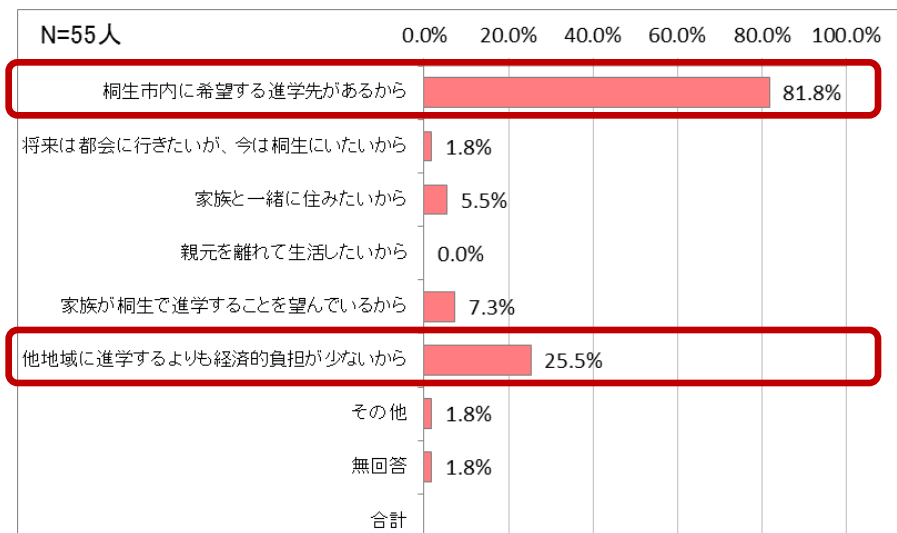


桐生市内と回答した55人の回答では、桐生市に希望する進学先があることを理由とする回答が約82パーセントあるほか、経済的負担を理由とする回答が約26パーセントあった。

■桐生市外へ進学したい理由

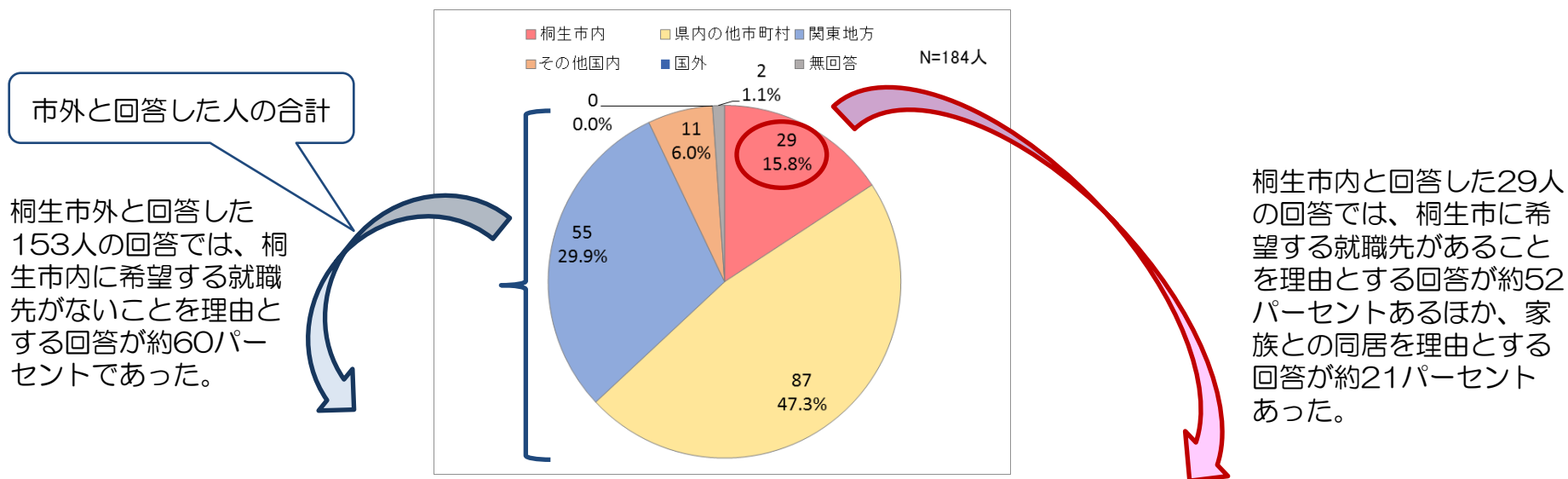


■桐生市内へ進学したい理由



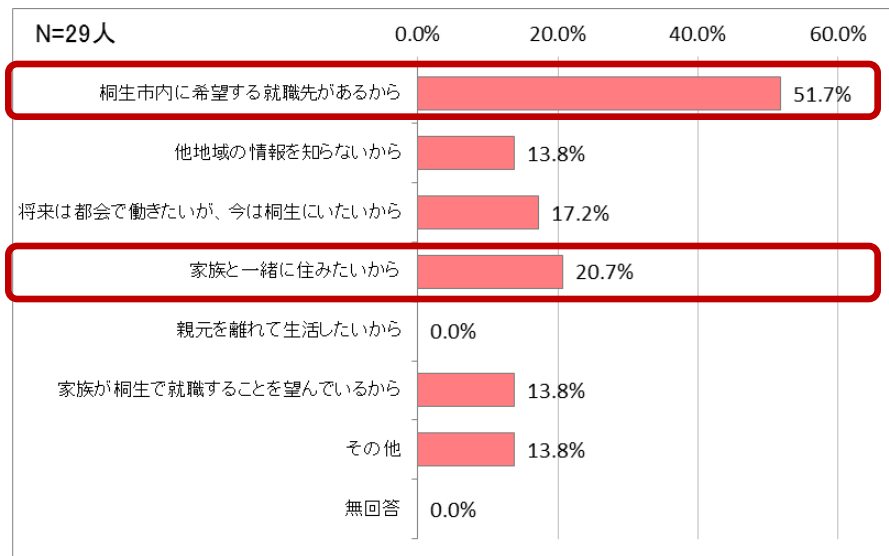
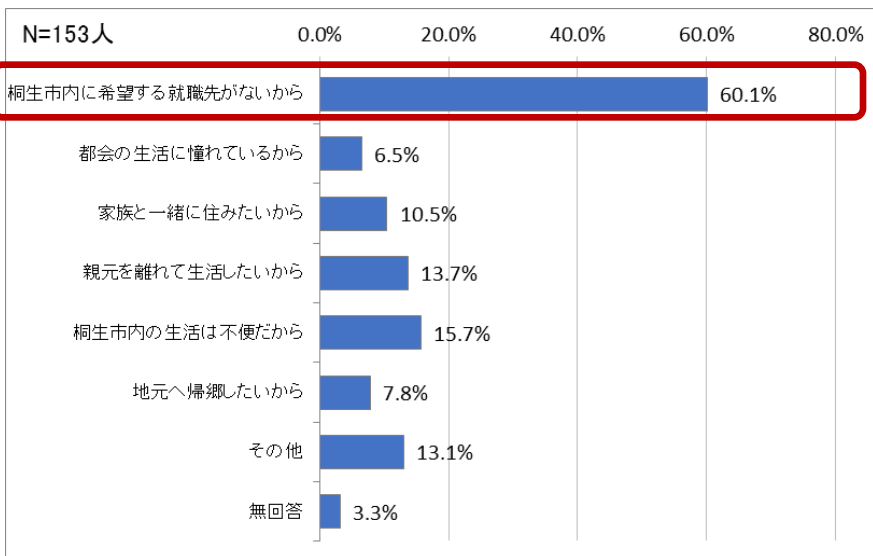
5：目指すべき将来の方向

以下のグラフは学生（高校生・大学生）に対し、就職先の意向を聞いた結果であり、桐生市内と回答した学生は約16パーセントであり、桐生市外と回答した学生は合計すると約83パーセントであった。



■桐生市外へ就職したい理由

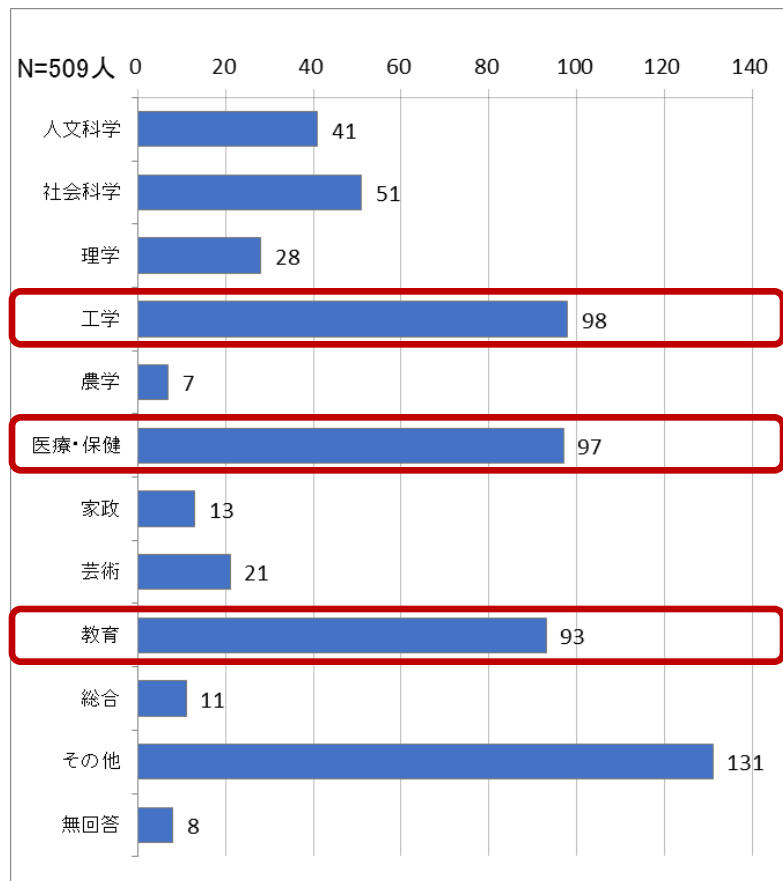
■桐生市内へ就職したい理由



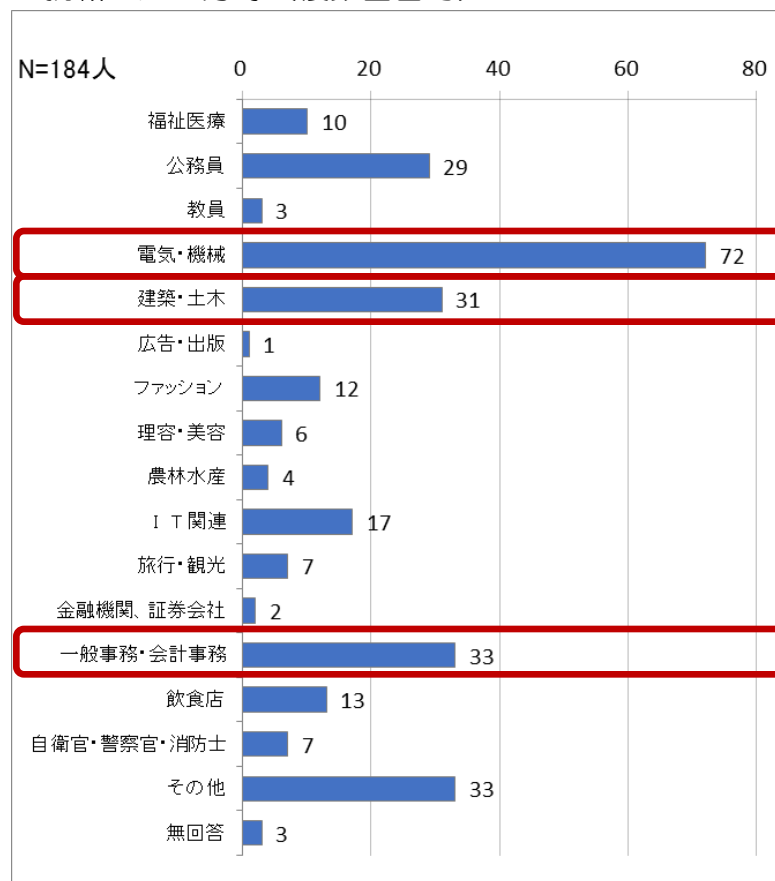
5：目指すべき将来の方向

以下のグラフは学生（高校生・大学生）に対し、進学希望者には進学したい分野、就職希望者には就職したい分野を聞いた結果である。進学では、工学、医療・保健、教育分野が多く、就職では、電気・機械分野、一般事務・会計事務が多いことがわかる。

■進学したい分野（複数回答可）



■就職したい分野（複数回答可）

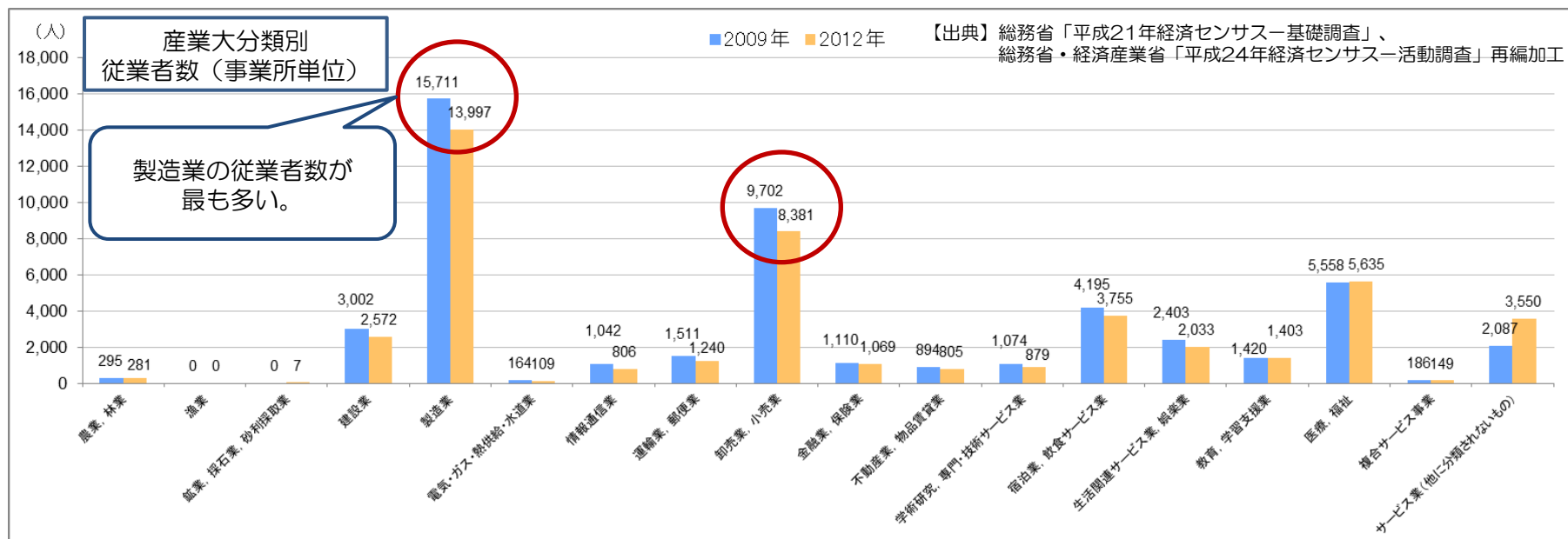
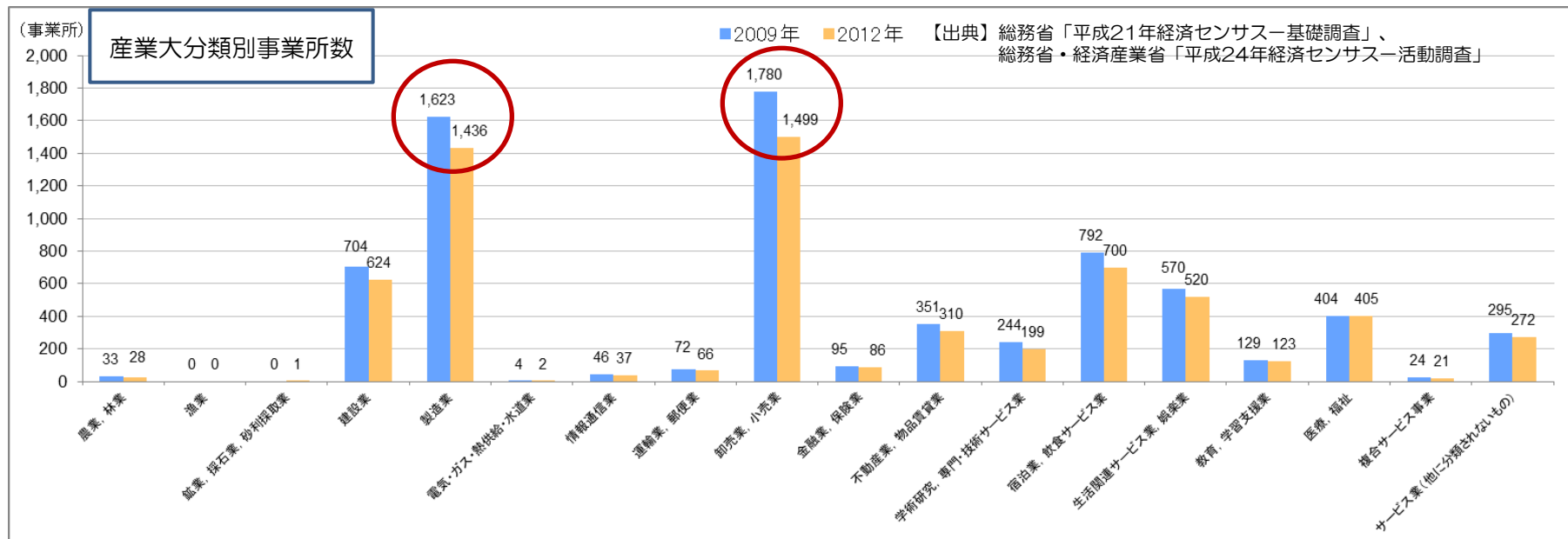


◆施策の検討に当たっての方向性

- 学生の進学先、就職先の受け皿の創出に関する施策
- 学生が進学後の就職先を決める際の希望分野の紹介等、マッチングに関する施策 などが必要であると考えられる。

5：目指すべき将来の方向

本市の産業の特徴：「製造業」、「卸売業、小売業」の事業所数及び従業者数が多いことである。

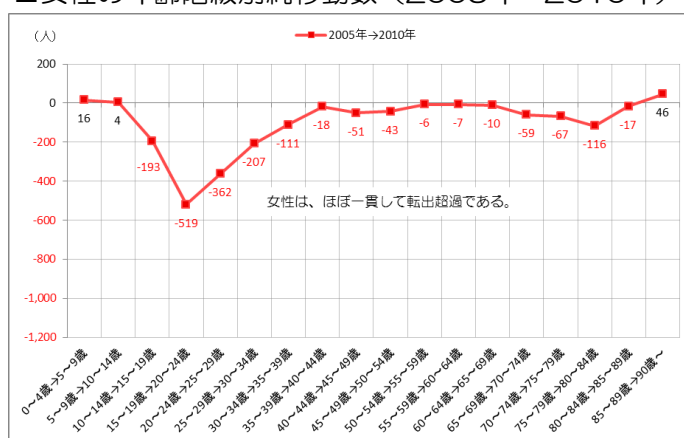


5：目指すべき将来の方向

③女性の市内定住等に向けた取組

本市の社会減の特徴は、特に若年層における女性の市外流出が多いことにある。近年、女性の大学への進学率が上昇傾向にあることから、女性の卒業後の就業先を確保することが必要であると考えられる。

■女性の年齢階級別純移動数（2005年→2010年）



■男女、産業大分類別有業者数及び割合（2012年）

（単位：千人，％）

	実数			割合		
	総数	男	女	総数	男	女
総数※	64,420.7	36,744.5	27,676.2	100.0	100.0	100.0
農業、林業	2,278.8	1,376.0	902.9	3.5	3.7	3.3
漁業	177.8	132.6	45.2	0.3	0.4	0.2
鉱業、採石業、砂利採取業	26.6	22.5	4.1	0.0	0.1	0.0
建設業	4,911.7	4,126.4	785.3	7.6	11.2	2.8
製造業	10,828.9	7,557.6	3,271.2	16.8	20.6	11.8
電気・ガス・熱供給・水道業	336.7	287.8	48.9	0.5	0.8	0.2
情報通信業	1,879.7	1,391.9	487.8	2.9	3.8	1.8
運輸業、郵便業	3,448.2	2,791.1	657.1	5.4	7.6	2.4
卸売業、小売業	10,022.6	4,922.4	5,100.2	15.6	13.4	18.4
金融業、保険業	1,617.2	760.9	856.4	2.5	2.1	3.1
不動産業、物品賃貸業	1,321.4	787.0	534.4	2.1	2.1	1.9
学術研究、専門・技術サービス業	2,206.3	1,495.2	711.1	3.4	4.1	2.6
宿泊業、飲食サービス業	3,744.2	1,432.0	2,312.2	5.8	3.9	8.4
生活関連サービス業、娯楽業	2,370.1	959.2	1,410.9	3.7	2.6	5.1
教育、学習支援業	2,992.2	1,323.4	1,668.8	4.6	3.6	6.0
医療、福祉	7,119.4	1,699.1	5,420.3	11.1	4.6	19.6
複合サービス事業	519.0	312.9	206.1	0.8	0.9	0.7
サービス業（他に分類されないもの）	4,029.4	2,461.5	1,567.9	6.3	6.7	5.7
公務（他に分類されるものを除く）	2,187.4	1,596.8	590.6	3.4	4.3	2.1

左の図は産業大分類別に男女の有業者数及び割合を示したものである。

有業者数の割合をみると、本市で従業者数をもっとも多く、事業所数も多い「製造業」に従事する女性の割合は男性と比較すると少ない。また、「医療、福祉」、「卸売業、小売業」に従事する女性の割合が多い状況となっている。

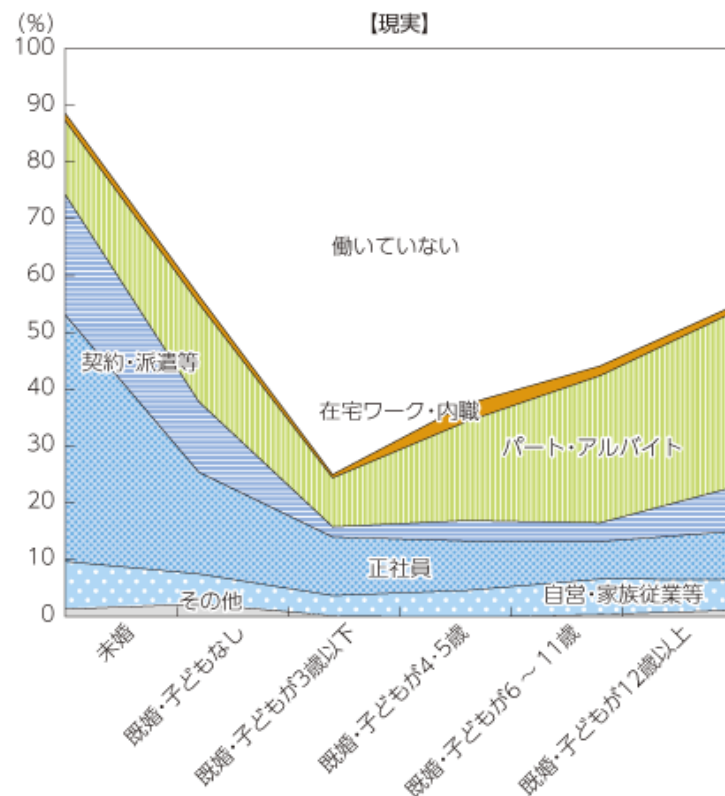
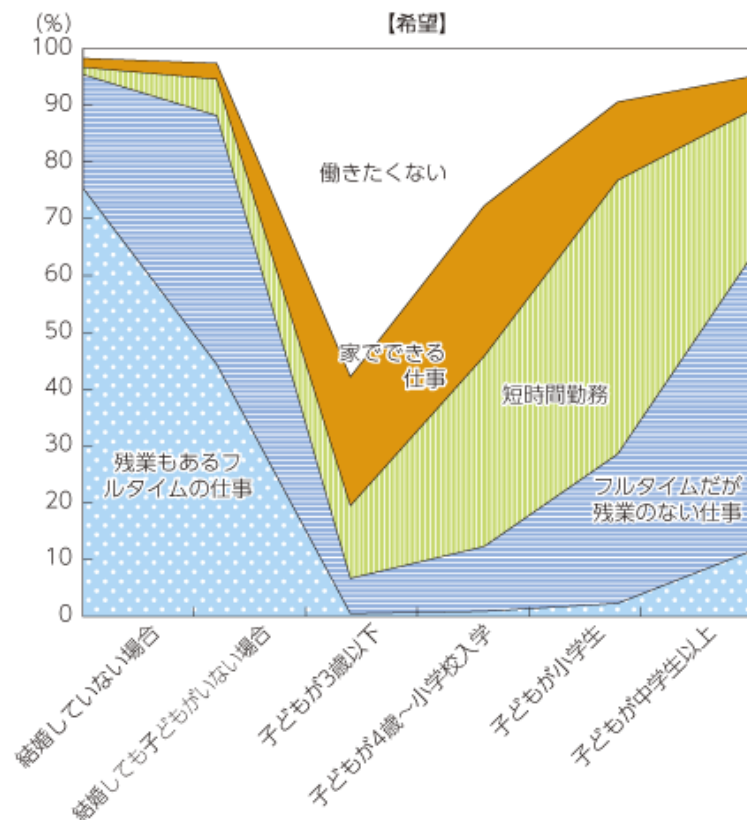
【出典】総務省統計局：平成24年就業構造基本調査を加工

※分類不能の産業を含む

5：目指すべき将来の方向

以下のグラフは30～40才代の女性に聞いた、女性のライフステージごとに希望する就業形態と現実の状況を示すものである。これをみると、子育てを行う女性は「短時間勤務」や「家でできる仕事」を希望しており、特に子どもが小学生以下が多いことがわかる。

■女性のライフステージの希望と現実



(備考) 1. 「自営・家族従業等」には、「自ら企業・自営業」、「自営の家族従業者」を含み、「契約・派遣等」には、「有期契約社員、委託職員」、「派遣社員」を含む。
2. 調査対象は、30～40歳代の女性である。

【出典】内閣府男女共同参画局「女性のライフプランニング支援に関する調査」（2007年）

◆施策の検討に当たっての方向性

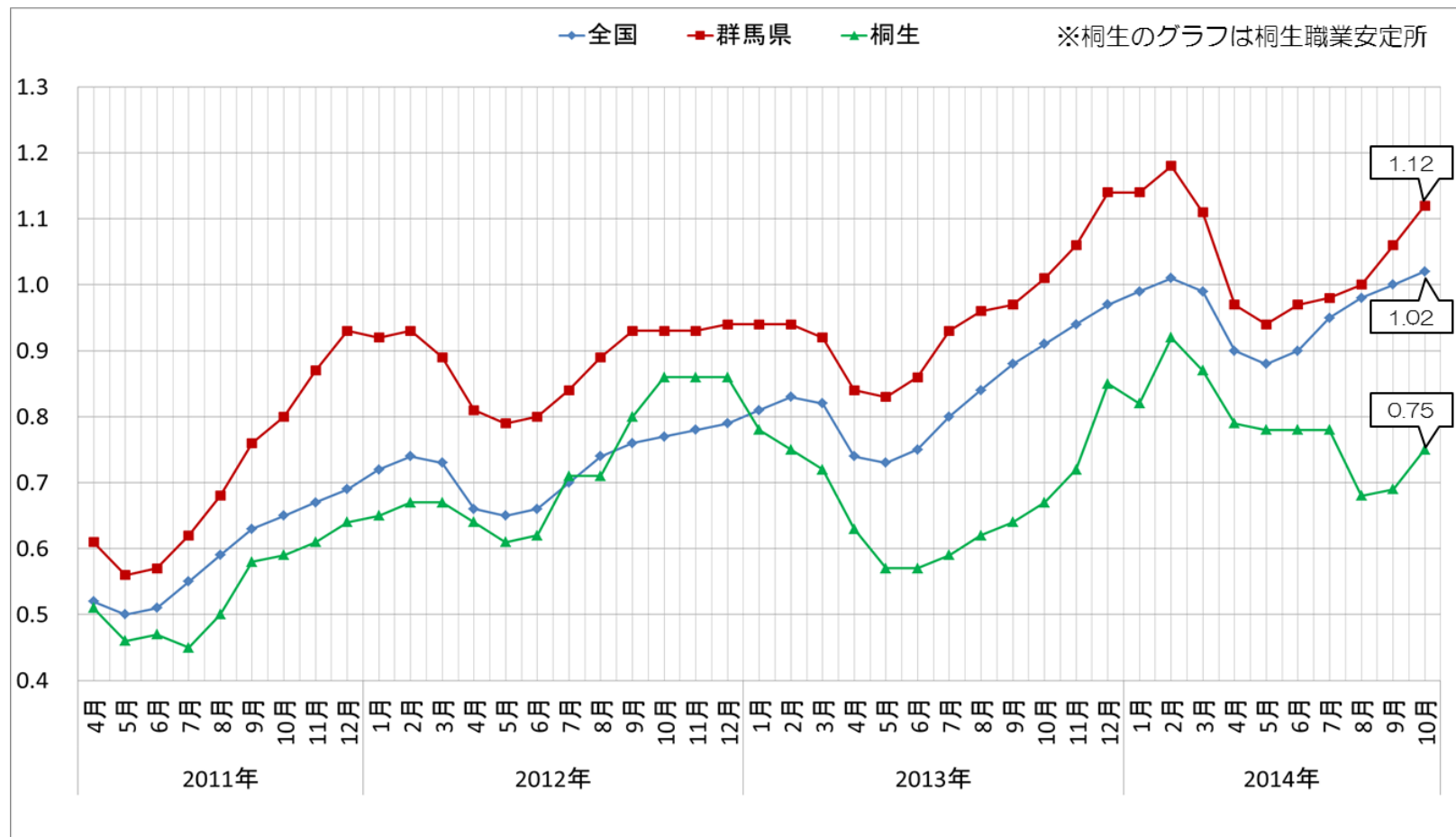
- 女性のライフステージに応じた就業形態の提供に関する施策
 - 女性の希望する（働きやすい）しごとの創出に関する施策
- などが必要であると考えられる。

5：目指すべき将来の方向

④雇用の創出等に向けた全般的な取組

以下のグラフは、有効求人倍率の推移であり、本市は全国及び群馬県に比較すると低い水準となっている。

■有効求人倍率の推移（2011年4月～2014年10月）



【出典】厚生労働省「職業安定業務統計」

◆施策の検討に当たっての方向性

- ・企業誘致や地場産業の業容拡大
- ・新たな就業形態を含む雇用創出に繋がる施策 などが必要であると考えられる。

5：目指すべき将来の方向

⑤本市の特徴や地域資源を生かした取組

本市の有する地域資源（農産物・バイオマス等）、伝統や文化を活用した取組についても、強み・弱みを整理した上で取り組む必要があると考えられる。

○桐生市森林面積：19,878ha
（国有林：6,255ha、民有林：13,623ha）
【出典】平成22年群馬県統計年鑑

○県内農業産出額によるランキングトップ10
に入る桐生産の主要農産物

県内順位	主要農産物
2	豚
5	キュウリ
8	生乳
8	肉用牛
8	鶏卵
8	ナス
8	乳牛
10	ハウレンソウ

※農業算出額とは、出荷量に市場価格を乗じたもの
【出典】平成18年度群馬県農政事務所統計部



図2 合併により魅力が高まった『新桐生』の特徴
【出典】桐生市観光交流課「観光基本計画」



【出典】るるぶ桐生市

◆施策の検討に当たっての方向性

- ・地域資源の六次産業化
- ・様々な観光、地域資源を活用した人を呼び込むための施策 などが必要であると考えられる。

5：目指すべき将来の方向

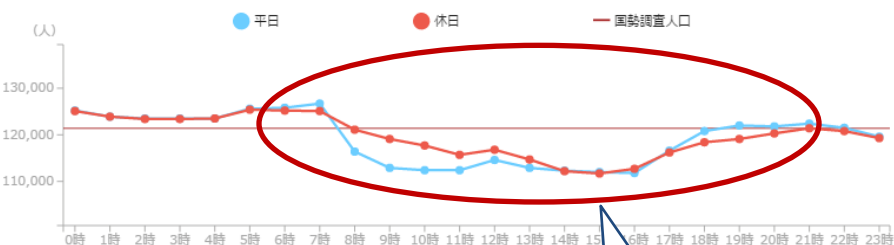
(3) まちづくりに関する対策

①：定住に関する取組

以下のグラフは桐生市の滞在人口の時間別推移を示したものである。本市の特徴は、日中の滞在人口が夜間と比較すると少ないことである。このことから、雇用の創出への取組のほか、居住地域としての方向性についても検討する必要があると考えられる。

■滞在人口時間別推移（2014年）※以下の留意事項参照

桐生市（2012年国勢調査人口：121,704人）



■昼夜間人口比率

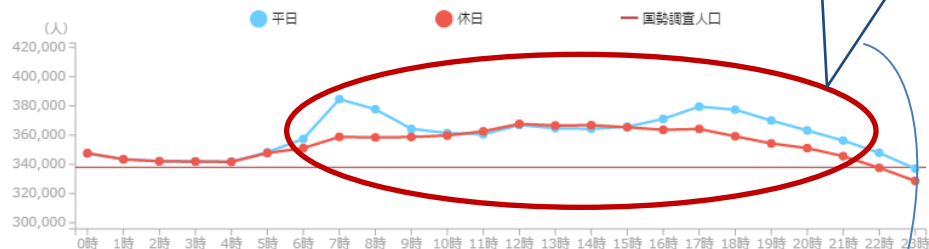
- ・桐生市：98.2
- ・前橋市：104.5
- ・太田市：105.9

【出典】総務省「2012年国勢調査」

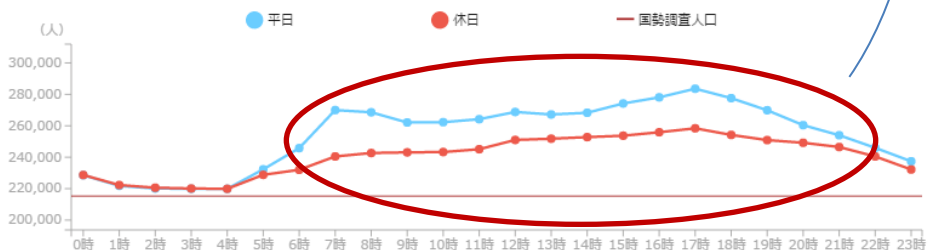
※昼夜間人口比率は夜間を100とし、日中の人口と比較するため、100より少ない場合、日中の人口は夜間より少ないこととなる。

本グラフ及び昼夜間人口比率が示すように、本市の日中の人口は市外への通勤・通学者の影響で夜間よりも少ない。

参考：前橋市（2012年国勢調査人口：340,291人）



参考：太田市（2012年国勢調査人口：216,465人）



【出典】株式会社Agoop「流動人口データ」

【留意事項】

- ・滞在人口は、情報提供の事前承諾を得て、スマートフォンアプリ利用者の位置情報を年・月・時間単位・平日・休日別に集計し、その値について、午前4時時点で滞在している自治体を出発地とし、2時間以上特定の地域（場所）にとどまることを「滞在」とした上で、国勢調査の人口を基に推計を行ったものである。
- スマートフォンアプリ利用者が約100万人であり、この利用者数と国勢調査人口を基に推計するものであるため、例えばアプリ利用者100人が滞在した場合、平成22年度国勢調査人口の約1億2千万人を基に、12,000人が滞在したものと推計する。
- ・休日とは、土曜日・日曜日・祝祭日である。

上記留意事項やスマートフォンアプリの利用者が比較的若い世代に利用されていることなどを踏まえ、本資料では月別、時間別、市区町村別滞在人口の傾向を探るための参考情報として活用するものとする。

◆施策の検討に当たっての方向性

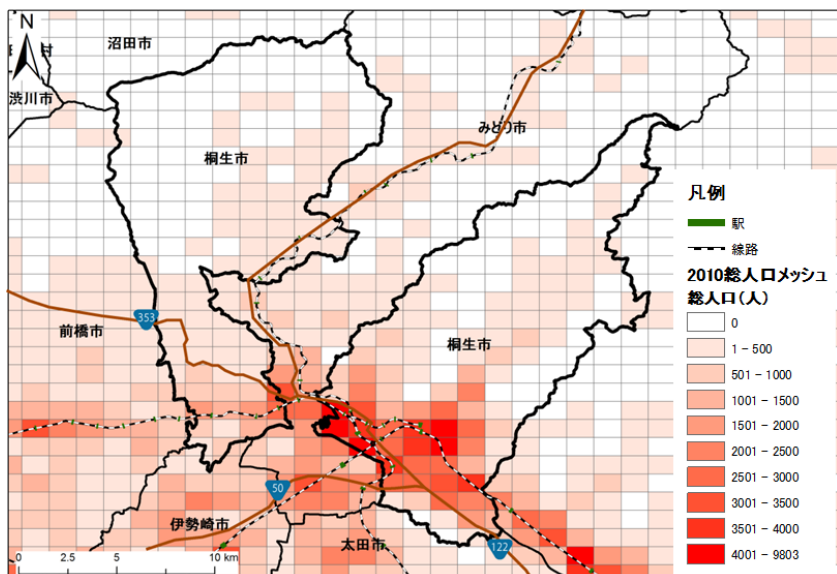
- ・住宅、雇用、子育て、教育などの分野において、“誰もが住みたいと思えるまち、誰もが住み続けたいまち桐生”に向けた施策が必要であると考えられる。

5：目指すべき将来の方向

②：持続可能なまちづくりに関する取組

以下の図のとおり、本市の人口減少は市域全体で進むことが予想されており、人口密度の低い分散した地域となることが危惧される。また、市内インフラの適切な維持管理を行うことが必要となることが考えられる。

■2010年 メッシュ人口（総人口・1kmメッシュ）



【出典】国土交通省国土計画局

◆施策の検討に当たっての方向性

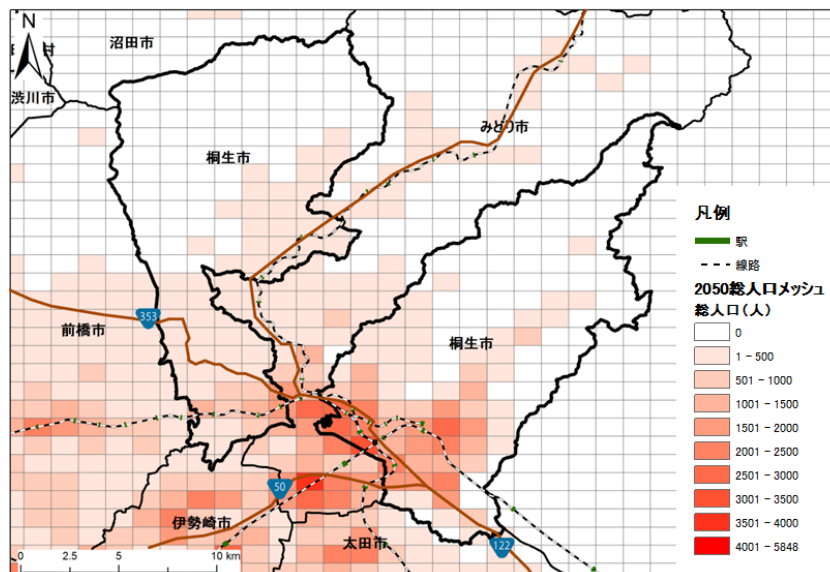
- コンパクトなまちづくりを誘引するための計画的なまちづくりに関する施策
 - 適切な市有施設等の管理・運営など、持続可能なまちづくりに関する施策
- などが必要であると考えられる。

■県内12市 市有財産【建物】延床面積リスト（平成23年度末）

団体名	住民基本台帳人口 (外国人登録人口除く)	延床面積	一人当たり	備 考
桐生市	121,004 人	755,747 ㎡	6.25 ㎡/人	
前橋市	338,118 人	1,415,643 ㎡	4.19 ㎡/人	
高崎市	370,781 人	1,294,100 ㎡	3.49 ㎡/人	
伊勢崎市	200,749 人	681,536 ㎡	3.39 ㎡/人	
太田市	212,783 人	848,008 ㎡	3.99 ㎡/人	
沼田市	51,900 人	251,590 ㎡	4.85 ㎡/人	
館林市	77,600 人	269,326 ㎡	3.47 ㎡/人	
渋川市	83,583 人	368,867 ㎡	4.41 ㎡/人	
藤岡市	68,616 人	238,719 ㎡	3.48 ㎡/人	
富岡市	51,690 人	221,894 ㎡	4.29 ㎡/人	
安中市	62,269 人	272,393 ㎡	4.37 ㎡/人	
みどり市	51,917 人	— ㎡	— ㎡/人	公表されていないため対象外とする
桐生市を除く県内他市の市民一人当たりに対する延床面積平均値			3.86 ㎡/人	

【出典】桐生市企画課「市有施設整備基本方針」

■2050年 メッシュ人口推計（総人口・1kmメッシュ）



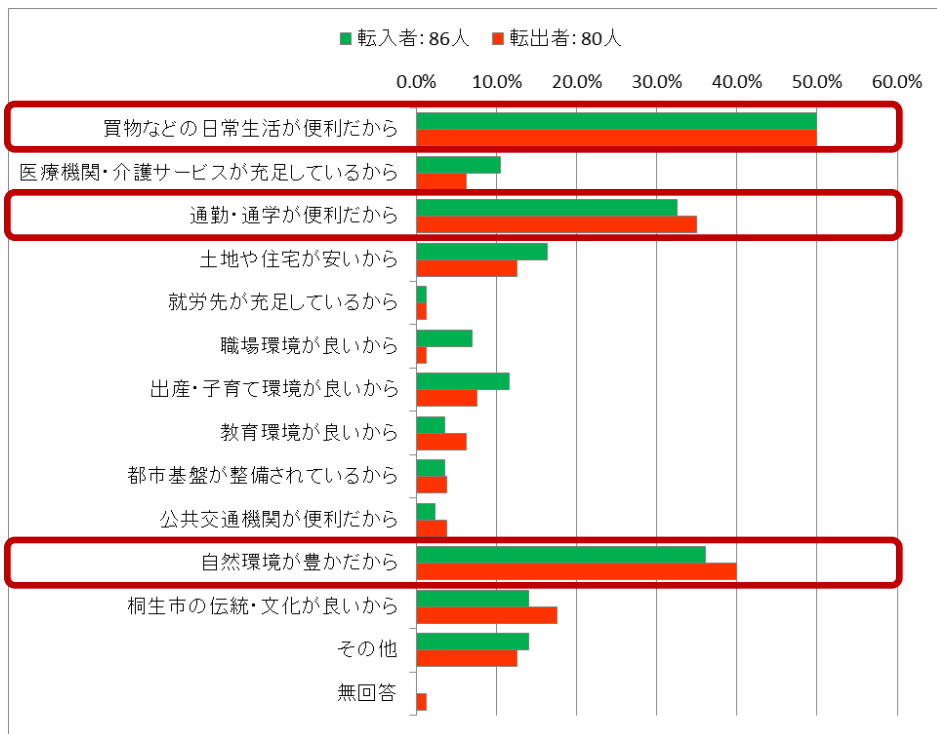
5：目指すべき将来の方向

以下のグラフは、本市への転入者及び本市からの転出者に対し、本市の住みやすさに関する評価を聞いた結果であり、転入者及び転出者ともに同様の回答の傾向がみられる。

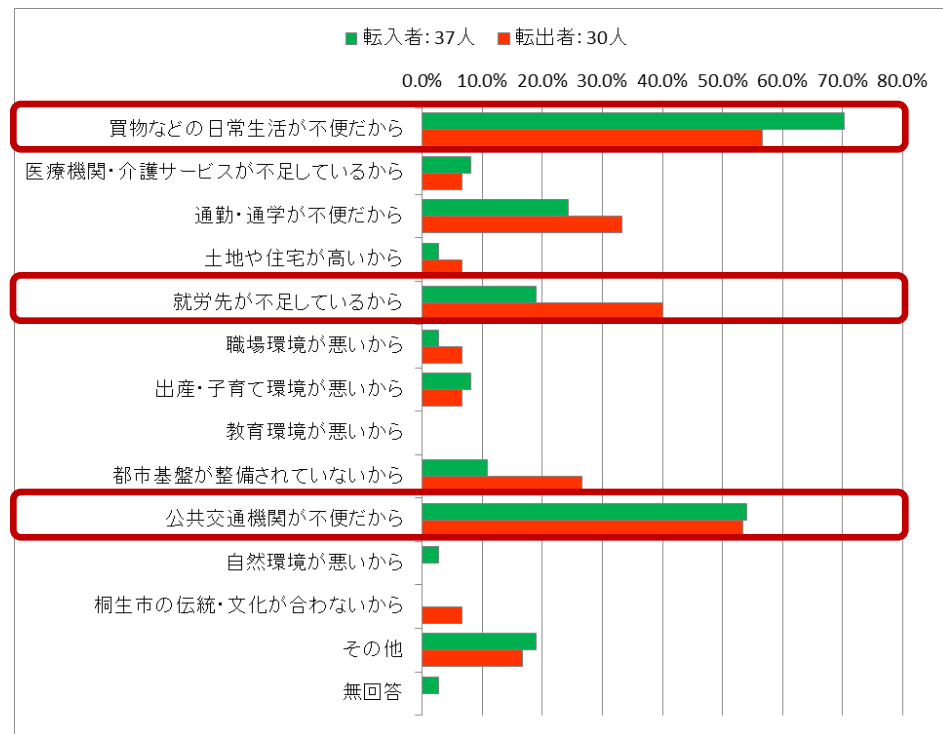
住みにくいと考える理由について、「就労先が不足している」では転出者の回答の割合が多いことがわかる。

また、住みにくいと考える理由について、「公共交通が不便だから」の割合が多いが、“住みやすい”及び“住みにくい”の回答ともに、「買物などの日常生活が便利だから（不便だから）」の割合が高いことや、住みやすいでは「通勤・通学が便利だから」の割合が高いことなどから、居住地域による回答の違いがあるのではないかと推測されるほか、道路交通網に関する意見等も含まれているのではないかと考えられる。

■住みやすいと考える理由について（複数回答可）



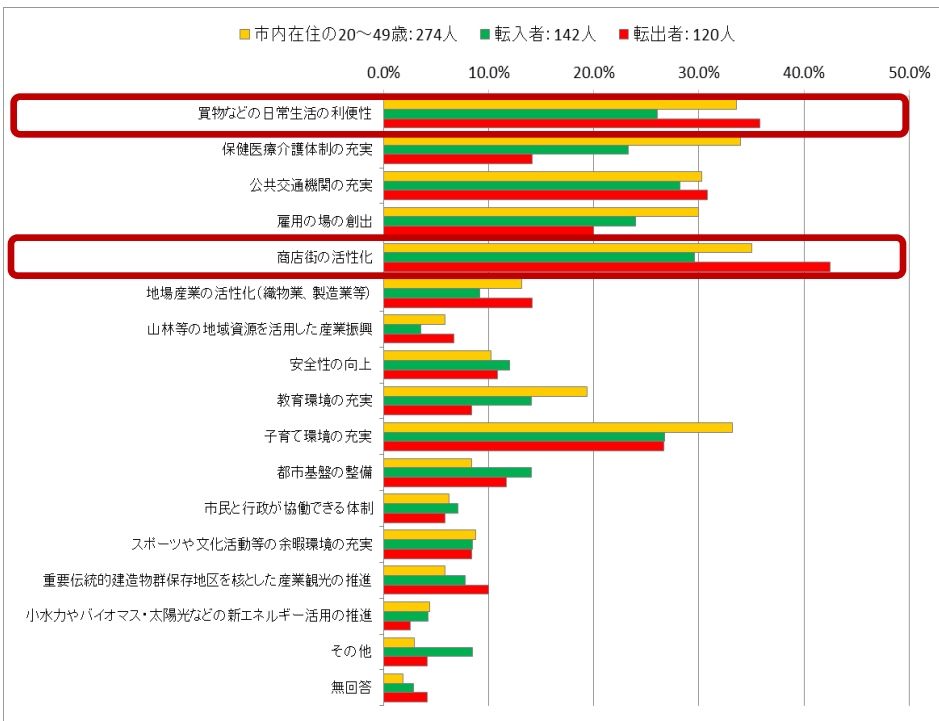
■住みにくいと考える理由について（複数回答可）



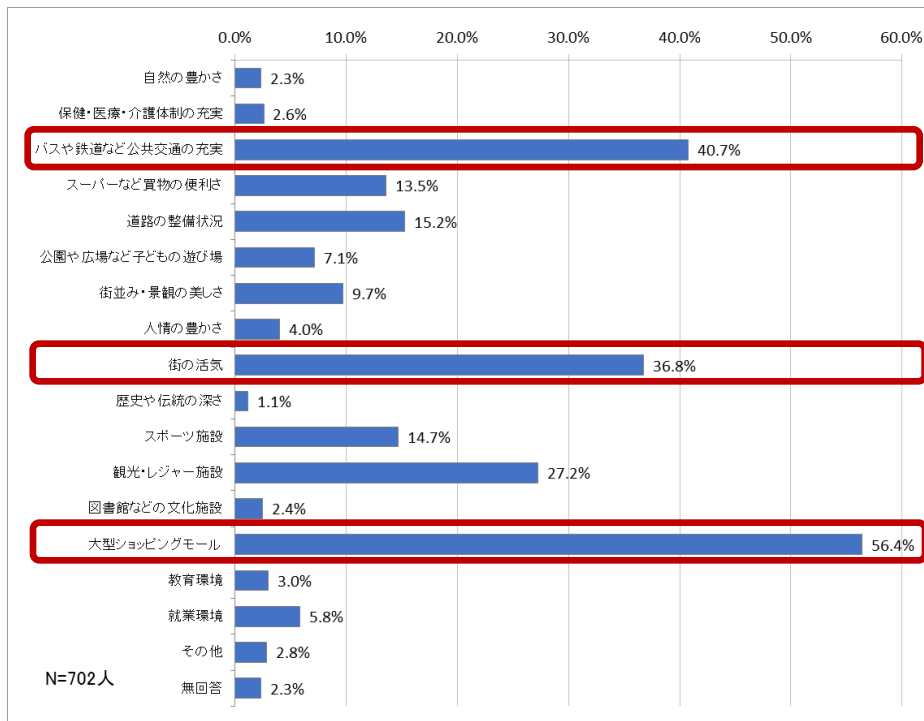
5：目指すべき将来の方向

以下のグラフは、本市のまちづくりについて聞いた結果である。

■ 桐生市が今後重点的に取組んでほしいこと（複数回答可）



■ 学生が桐生市に不足していると感じること（複数回答可）



◆ 施策の検討に当たっての方向性

- ・ 今後ますます進む高齢化に対応するため、買物環境を始めとする生活の利便性を確保するための施策
 - ・ まちなかの魅力向上や活性化に寄与するための施策
 - ・ 若者が充実した市内生活を送るための街づくりに関する施策
- などが必要であると考えられる。

5：目指すべき将来の方向のまとめ

ここまでに提示した「施策の検討に当たっての方向性」を整理し、本人口ビジョンにおける方向性をまとめる。

なお、本項目については、（仮称）桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略における基本目標・基本的方向と一体的に作成する必要があることから、総合戦略策定準備委員会及び総合戦略推進委員会からの意見等を反映させた原案で示す。

6：人口の将来展望

ここでは、本人口ビジョンで示す方向性に基づき、総合戦略で掲げる4つの基本目標に位置付けた施策・事業を実施することで、どのような人口規模を維持していくかを展望するものとなる。

このため、「2：将来人口の推計と分析」で示した将来推計の図を基に、本市の目指す人口規模を提示するとともに、そのために必要となる出生率や人口移動を提示する。

なお、本項目については、総合戦略策定準備委員会及び総合戦略推進委員会において、本市がどの程度の規模の人口を維持していくのか等が決定された後に示す。

◆桐生市の将来人口の推計と分析

